



JSBMR Newsletter No. 8

日本骨代謝学会 / The Japanese Society for Bone and Mineral Research

〒612-8082 京都市伏見区両替町 2-348-302 アカデミック・スクエア内

TEL: 075-468-8772 FAX: 075-468-8773 http://jsbmr.umin.jp

第25回日本骨代謝学会学術集会 開催案内

会期: 2007年7月19日(木)~7月21日(土)
会場: 大阪国際会議場
〒530-0005 大阪市北区中之島 5-3-51
TEL: 06-4803-5555(代表) / FAX: 06-4803-5620
会長: 大阪市立大学大学院医学研究科整形外科
教授 高岡 邦夫
演題募集締切: 平成19年3月22日(木)正午
ホームページ: <http://www2.convention.co.jp/jsbmr25/>

*新しい情報、学会内容はホームページ(<http://www2.convention.co.jp/jsbmr25/>)に随時掲載、更新いたします。

企画:

招待講演

「Bone quality Bone strength and fragility」

Overview 講演

「骨形成因子」

特別講演

「核内レセプタと情報伝達」

国際合同シンポジウム (JSBMR-ANZBMS)

「Bone Research in Pacific Rim」

シンポジウム

- 1) 「炎症と骨軟骨代謝」
- 2) 「生活習慣病と骨代謝」
- 3) 「破骨細胞」

ミニシンポジウム

- 1) 「Treatment induced bone disease」
- 2) 「骨質評価法」
- 3) 「変形性関節症と骨代謝」
- 4) 「骨形成の新知見」

- 5) 「血管新生と骨軟骨代謝」
- 6) 「骨軟骨再生の諸問題」
- 7) 「骨代謝のバイオイメージング」
- 8) 「骨細胞研究の進歩」
- 9) 「メカニカルストレスと骨代謝」
- 10) 「ステロイド骨症」
- 11) 「腎性骨異常栄養症」
- 12) 「癌と骨破壊」

*上記主要プログラムは全て現時点での暫定的な決定であり、内容は変更となる場合もございますので予めご了承ください。

一般演題募集について:

- 1) 演題募集はオンライン登録(インターネット)のみに行います。
- 2) HP URL は <http://www2.convention.co.jp/jsbmr25/> です。ホームページに掲載のオンライン登録上の注意事項に従って必要事項を入力してください。
- 3) 一般演題の発表形式は口演およびポスターとします。発表形式の希望は演題応募時に選択可能です。

受付期間:平成18年12月20日(水)

~平成19年3月22日(木)正午

HP address: <http://www2.convention.co.jp/jsbmr25/>
詳細は上記のホームページ内、「演題募集」ページをご確認下さい。
なお、本登録のみとし、事前練習用のホームページはございませんのでご注意ください。

- 4) 演題の採否につきましては会長にご一任ください。口演、ポスターに関してはご希望に添えない場合がありますが、予めご了承ください。
- 5) 採用されました提出演題抄録は確定抄録として抄録集に掲載されます。登録後の抄録の訂正、差し替えはできかねますので、オンライン登録上の注意事項を参照の上、お間違えのないように十分ご注意ください。

連絡先:

第 25 回日本骨代謝学会学術集会についてのお問い合わせは下記にお願いいたします。
お問い合わせには E-mail をご利用ください。

第 25 回日本骨代謝学会学術集会 事務局
事務局長 小池 達也
〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町 1-4-3
大阪市立大学大学院医学研究科整形外科
TEL:06-6645-3851 FAX:06-6646-6260
E-mail:jsbmr25@convention.co.jp

2006 年度 日本骨代謝学会 会務報告

(2006 年 6 月 ~ 2006 年 12 月末)

1) 理事会

2006 年度 第 1 回理事会議事録

日 時: 2006 年 5 月 12 日(金) 15:00 ~ 17:00
会 場: 千里ライフサイエンスセンター 20 階 2002 号室

本会名誉会員・森井浩世先生が 2006 年 4 月 6 日ご逝去された事を追悼し、出席者一堂で黙祷を捧げ、議事を開始した。

議 事:

2005 年度第 4 回理事会議事録の承認(松本理事長)
2006 年 2 月 24 日に行われた 2005 年度第 4 回理事会の議事録案が提出され、承認された。
なお、今回会議の議事録署名人としては、遠藤理事、太田理事が担当することとなった。

< 報告事項 >

1. 庶務報告(野田理事)

野田理事より、2006 年 3 月末時点の、役員数、会員数、および会費納入率が報告された。会員数が、昨年度よりやや増加した要因は、第 23 回学術集会時の入会者が増えた為であることなど説明があった。

また、ロダン先生の奥様より、本会からの寄付について、お礼状をいただいた旨、報告があった。

2. 各種委員会報告

1) JBMM 編集委員会(松本理事長)

松本理事長より、JBMM の投稿および掲載状況について報告があった。2005 年度の reject 率が 55.6%と、採択率よりも高くなっている現状について、説明があった。また国外からの投稿が増えてきているが、国内からも広く投稿してもらうよう、呼びかけがあった。

平成 18 年度の科学研究費補助金(研究成果公開促進費)として、710 万円(平成 17 年度は 580 万円)の交付が内定された事について報告された。

新しい Editorial Board メンバーの紹介があり、基礎系の投稿が増えてきているため、associate editor に基礎系の先生を追加した事など、新体制について、発表があった。

その他、懸案となっていた印刷費のカラーページ代について、今後は、学会負担をなくし、すべて著者負担とすることが承認された。

2) 骨密度基準値設定委員会(福永委員長)

第 1 回の委員会を 4 月 2 日に開催された旨、報告され、本委員会の経緯と目的および、データ収集の進め方や、調査範囲について協議された旨、報告があった。

なお、第 2 回委員会は、5 月 21 日(日)、パブリックヘルスリサーチセンター(東京都)にて開催する予定である旨、報告があった。欧米の基準値との整合性をつめる必要があるため、次回より、この分野に明るい藤原佐枝子先生(放射線影響研究所)が委員に加わった旨、報告された。

松本理事長より、本委員会についてなんらかの予算措置を

講じる必要があるのではないかの提案があり、審議の結果、企画の性質をふまえて、まずは厚生労働省科学研究費に応募することについて合意を得た。

3. 第24回骨代謝学会準備状況について(川島第24回会長)
2006年7月6日(木)～8日(土)に開催予定の第24回学術集会の進捗状況についてプログラム企画案など説明があった。また、新しい試みとして、ポスター発表にてオーラルセッションを設け、盛大な討論を促す予定である旨説明があった。

4. 第26回骨代謝学会準備状況について(松本第26回会長)
2008年の第26回骨代謝学会の開催について、松本理事長より、日本骨粗鬆症学会と一部合同学会とするという日程について提案があり、承認された。

理事会終了後、当初予定の日程が、整形外科関連学会と重複することが明らかになり、骨粗鬆症学会と再度調整の上で以下の日程を進めることとなり、改めて理事会審議に諮り承認された。

・2008年10月29日(水) 日本骨代謝学会
・2008年10月30日(木)～31日(金)
日本骨代謝学会・日本骨粗鬆症学会 合同開催
・2008年11月1日(土) 日本骨粗鬆症学会
開催場所は大阪国際会議場で、収支予算、会計は完全折半で進めることや、参加費を出来るだけ増額せず、会期4日間どちらの学会にも自由に参加可能とすること、演題応募や、プログラム編成については、血液学会、臨床血液学会の合同学会のノウハウを参考にすること等を検討中であることが説明された。

また、今大会を契機に、学術集会の会期を、7月から10月に移動させることについて提案があった。ASBMRの直後と重なり、参加者が演題応募に余裕が無くなる事や、他学会と会期が重複する恐れがあるなど懸念材料もあるが、翌年の大会長にとっては、7月に戻すことで準備期間が短くなり、より負担のかかる事を考慮して、合同大会を2008年の1回で終わらせるのではなく、画期的な企画として前向きに検討し、以後3年程度は、10月に合同開催を続けることとして、開催の意義などを再度評価することが確認された。

5. 学会誌掲載論文の転載許可について(事務局)
事務局より、(株)医薬ジャーナル社出版の書籍にて、ステロイドガイドラインの転載依頼があった旨、報告された。
また、京都府薬剤師会からも当ガイドラインの転載依頼があり、当会が非営利団体であることから、通常は、1部あたり50円の使用料を、10円にて許諾する提示をしたが、辞退された旨、報告があった。

<審議事項>

1. 2005年度収支決算について(吉川理事)
吉川理事より、収支決算報告(案)について報告があった。収入、支出とも、ほぼ予算通りに執行されたが、雑収入項目については、日本学会事務センターの破産関連和解交渉金が入ったため、例年より多くなっていること、また、清野監事のご尽力による、JBMM別刷(ステロイドガイドライン)の販売により、予算を大幅に超える収入があり、学会事務センター破産による約2,100万円の特別損金が生じたことにかかわらず、単年度で755,882円の黒字決算に終わった旨説明があった。

2005年度より新設されたIOF-ANZBMSトラベルアワード基金については、7社の企業より、合計700万円の寄付を受けた事が報告された。

2. 2005年度会計監査について(乗松監事)
乗松監事より、清野、乗松両監事が、それぞれ会計監査を行ない、帳簿および伝票など資料を確認した結果、経理は適正に執行されていることが報告された。

3. 2006年度予算案について(吉川理事)
吉川理事より、2006年度予算案について説明があり、原案どおり承認された。

4. 学術賞・奨励賞の選考について(川島選考委員長)
川島選考委員長より、理事会に先立って開催された学術賞・奨励賞選考委員会における審議結果が報告され、いずれも承認された。

【学術賞】

<外科系>

萩野 浩(鳥取大学医学部附属病院リハビリテーション部)

<内科系>

井上 聡(東京大学大学院医学系研究科加齢医学講座)

<基礎系>

西村 理行(大阪大学大学院歯学研究科生化学教室)

奨励賞については、後日理事会審議に諮り、下記の受賞者が選出された。

【奨励賞】

<基礎機能系>

与語 圭一郎(奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科)

<内科臨床系>

窪田 拓生(大阪大学大学院医学系研究科情報統合医学小児科学)

< 外科・歯科臨床系 >

河村 直洋(東京大学医学部整形外科)

5. 学会賞の選考について

各理事に推薦を募った結果、清野佳紀先生(大阪厚生年金病院院長)を今年度の学会賞受賞者に選出した。

6. IOF-ANZBMS トラベルアワード選考について

本年度の IOF-ANZBMS トラベルアワード応募者 65 名について選考の結果、平均点が 3.2 点以上の合計 41 名へ交付することが承認された。また、アワード授与の手続きに関しては、IOF - ANZBMS へ演題投稿が完了した後に、送金することが確認された。

7. 学術集会の撮影、記録について

学術集会の収録について一業者より無料サービスの申し出のあったことから、許可すべきかどうかについて、協議された。審議の結果、発表内容は発表者個人の知的所有権に属するものであり、学会が本人の許可なく第三者にその提供を許可することは避けるべきであるという結論に達した。更に、発表者の研究内容を守る姿勢を貫く方針から、日本骨代謝学会における撮影や収録については、今後一切を禁じることが決定された。

また、大会期間中は、休憩時間のスクリーンや各セッション開始の挨拶時等で、許可の無い写真撮影や、ビデオ撮影の禁止を、積極的にアナウンスしていくことが確認された。

8. 学会ホームページの人事募集掲載について

本学会ホームページへの人事募集掲載について問い合わせのあったことから、掲載の諾否について審議された。需要の数も多いことから、今後は掲載の方向で進めていくことが承認された。

「求人情報」等の名称で、ページを新設し、情報掲載および関連ページへのリンクも許可することを確認した。

また、事務局にて、定期的にホームページへのアクセス数を記録することとなった。

9. 次回理事会、および委員会のスケジュールについて

2006 年度第 2 回理事会は 7 月 5 日(水)13:00~15:00 学術集会会場(TFTホール)内の会議室にて開催されることが確認され、各委員会については時間帯が重ならないよう調整を計り、後日決定することとなった。

10. 運動器の10年日本委員会 会員継続について

標記の委員会について、活動趣旨や内容が不明確な印象

であったことから、今年度より参加を控える方向であった。しかし、遠藤理事、豊島理事、乗松監事より、本委員会が今後、広報活動に力を入れ、運動器の QOL を高める活動を推進していくうえで、本学会の参加が非常に大きな意味を持つという意見が出された。以上の意見を基に、本学会を構成する整形外科以外の学問領域の出席者からの意見も総合した上で、今後も会員を継続することが全員一致で承認された。

2006 年度 第 2 回理事会議事録

日 時: 2006 年 7 月 7 日(金) 13:00~15:00

会 場: TFT ホール東館9階 9C 号室

議 事:

2006 年度第 1 回理事会議事録の承認(松本理事長)

2006 年 5 月 12 日に行われた 2006 年度第 1 回理事会の議事録案が提出され、承認された。

なお、今回会議の議事録署名人は、杉本理事、滝川理事が担当することとなった。

< 報告事項 >

1. 第 24 回会長挨拶(川島第 24 回会長)

2. 庶務報告(野田理事)

野田理事より、2006 年 6 月 20 日時点の、役員数、会員数、および 2006 年 5 月 31 日時点の会費納入率が報告された。また、昨年度の入退会者の専門領域、所属機関、年齢層の内訳について報告があり、ここ 2 年で、学生会員の数がのびている旨、報告された。

また、森井浩世先生の奥様より、本会からの寄付について、お礼状をいただいた旨、報告があった。

加藤理事より年齢別や、業種別に絞った入会方法を充実させることや、現会員を細分化し、学会における立場に、段階を作ることなど、今後の会員の獲得について、提案があった。会の運営に携わる評議員とは別に、骨代謝エキスパートとして、正会員と区別した会員区分を作る方向で進めていくことが確認された。

今後の理事会会場については、予算 3 万円ほどで、交通の便や携帯電話の状況なども考慮した上で、選定することが確認された。

3. 会計報告(福永理事)

2006 年 5 月 31 日現在の会計中間報告について説明があった。年度が始まり 2 ヶ月という短期間のため、支出はあまり発生

していないが、会費収入については順調に納入されている旨、説明があった。また、ステロイドガイドラインの別刷代、転載料として、約60万円の収入のあったことが報告された。

4. 各種委員会報告

1) あり方委員会(松本理事長)

同日午前10時より委員長不在であったが、非公式に協議が行われ、下記について報告された。

学部学生の学術集会の参加について、参加費を無料にすることが、将来の入会のインセンティブに繋がるのではないかという提案があり、学部学生、および研修医については、評議員の署名があれば、無料で参加可能にすることが承認された。

骨代謝学会と骨粗鬆症学会との合同開催について、いったん会期を7月から骨粗鬆症学会に合わせた10月に変更した後、次年度の準備に支障が出ることもあり、およそ3回は試行錯誤で合同開催を進めていく提案を、骨粗鬆症学会へ申し入れることが確認された。

診断基準、ガイドライン作成を骨粗鬆症学会と合同で作成することによって、両学会の権威付けおよび、著作権などが両方に入ってくるシステム等を協力して構築することについて提案があった。

2) JBMM 編集委員会(清野委員長)

例年より投稿数がやや減少気味であること、および国外からの投稿が増えている状況である旨、報告があった。

表紙デザインの変更について、同日の編集委員会にて新デザイン(案)の投票が行われ、決定された旨、報告された。

Editorial Boardを大きく改変した旨報告があった。Refereeの選択については、基本はEditorial Boardメンバーへ依頼するが、非会員に審査を依頼する場合は、御礼として図書カードを贈る旨提案があり、承認された。

電子査読化の作業が進んでおり2007年1月より試行する予定である旨、説明があった。

昨年発行されたSupplementが、Current Contentsに掲載されている事が判明し、来年発表のimpact指数に影響を与える旨報告され、今後のSupplement発行について注意することが確認された。

3) 第24回学術賞・奨励賞選考委員会(川島委員長)

川島委員長より、今年度の学術賞・奨励賞受賞者について報告があった。

4) 骨粗鬆症患者 QOL 評価検討委員会(中村委員長)

2000年度改訂版のValidityをとる作業について、およそ250

例の症例を集め、熊本先生(埼玉医科大学)に依頼して統計作業を進めており、7月7日の委員会に結果報告が提出される予定である旨、報告された。

5) 国際渉外委員会(米田委員長)

IOF-ANZBMS Travel Awardについては、41名の受賞者が決定され、現時点で、28名のIOFへの演題登録が進められている旨報告があった。予算は700万円であったが、日本からの招待演者の旅費等について、負担することとなり、240万円ほどをあてている旨説明があり、各々の受賞者の金額は、12万円前後になる予定である旨、報告があった。

来年度以降もこのAwardを継続することについて、提案があり、International dayの演者で著名な方や、一般演題の中で推薦のあった若手のオーストラリアの先生を対象とすることなど協議された。

IBMSの中で、Asia Pacific Rimが少ない現状について、会員数の増加を計り、評議員を中心に入会を推奨する予定である旨、報告された。

5) 骨密度基準値設定委員会(福永委員長)

第2回の委員会を5月21日(日)にお茶の水のパブリックヘルスリサーチセンターにて開催した旨、報告があった。

主な議題は、対象例の選択方法、IRB委員会の承認について、およびデータ収集についてであるが、収集については、より具体的な方法を決定するため、7月7日(金)の委員会には、メーカーの担当者も出席し、収集方法について検討する予定である旨説明があった。データ解析については、藤原佐枝子委員が担当する事となった旨報告された。

5. 第25回骨代謝学会準備状況について(高岡第24回会長)

松本理事長より同日行われたプログラム委員会において、小池幹事よりプログラム企画原案の提出があり、オーストラリアからの招待講演者や、シンポジウム、ミニシンポジウムテーマについての素案が紹介された旨、報告があった。

6. 学会誌掲載論文の転載許可について(事務局)

前回5月の理事会後に依頼のあった「原発性骨粗鬆症の診断基準(2000年度改訂版)」の転載依頼について報告があった。

< 審議事項 >

1. 2006年度特別賞の授与について(松本理事長)

松本理事長、清野編集委員長より鈴木不二男先生へ、長年にわたりJBMM編集委員長としてJBMMを国際的英文誌にし、

かつ impact factor を1以上に引き上げてくださった功績に対し、特別賞授与の推薦があり、全会一致にて承認された。

2. ステロイド性骨粗鬆症診断基準検討委員会について(松本理事長)

一昨年のステロイドガイドラインの完成以後、役割を終え、委員会開催の必要もなくなっていることから、正式に終結することが承認された。

3. 学会誌(和文誌)編集委員会について(清野編集委員長)

審議事項 2.と同様、和文誌の発行が終了し、ニュースレターの作成については、広報委員会の管轄となったことから、役割や機能が形骸化しているため、委員会を正式に終結することが承認された。

4. 学会ホームページのドメインについて(松本理事長)

現在の学会ホームページは、事務局受託先の(株)コネットのサーバ上に置かれているが、多くの学会、研究会で使用されている無料サーバ提供機関を利用することについて提案があり、審議の結果、医歯薬学系の学会が多く加入している UMIN(大学病院医療情報ネットワーク)のサーバに新規加入することが承認された。

5. 科学技術政策研究所の調査における回答候補者の推薦について

松本理事長より文部科学省の一組織である科学技術政策研究所の調査回答候補者の推薦について、ふさわしい先生の推薦について、呼びかけがなされた。

6. 平成 19 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞の推薦について

標記の賞について、松本理事長より紹介があり、ふさわしい先生の推薦について呼びかけがなされた。

7. 各種のガイドライン等作成における骨粗鬆症学会との協力について

松本理事長より、ステロイドガイドラインの著作権については、J BMM 掲載および日本語版とも骨粗鬆症学会に対し優先権を持って進めてきたが、今後、同学会と合同でガイドラインを作成するにあたり、著者が両学会に所属している形が多く予想されることもあり、著作権の取り扱いについて協議された。Metabolic Syndrome のガイドラインが 7 学会合同で発表されたことで、社会的な評価を確立した事例を参考にして、今後骨粗鬆症学会へ関連学会がそろって推奨しガイドライン等を公表すること、お

よび著作権もシェアする等の協力を進めるよう、予め申し入れする提案があった。乗松監事、中村委員長からも賛成の意見があり、承認された。

また、清野監事より両学会に窓口を置いて、どちらかに情報が偏ることがないように、相互に協力体制をとることについて提案があった。

8. 第 26 回日本骨代謝学会の日本骨粗鬆症学会との共催およびその後の合同開催に向けた準備委員会について

前回理事会にて、骨粗鬆症学会との合同開催を、第 26 回より 3 年間継続することが承認されたが、同学会の役員が改選されて間もないことから、プログラムや組織委員会編成など各論においてどこまで協力が可能であるか未定な部分もあるため、まずは、松本理事長より、骨粗鬆症学会理事長へ合同開催およびその他協力体制について書面にて申し入れすることが確認された。

9. 2009 年度(第 27 回)学術集会会長選出について

2009 年は基礎系の先生が担当になること、および骨粗鬆症学会との 2 回目の合同開催であることを踏まえ、審議の結果、米田俊之先生が選出された。

10. 学術集会のプレス参加について

ライフサイエンス社より学術集会発表の取材依頼があり、対応について審議の結果、今大会より発表内容の写真撮影ビデオ撮影を一般参加者へ禁止する方針であることから、同様にプレス以外の取材については承諾しないことが確認された。

中村委員長より、こういった申し入れはその都度理事会審議による許可制とし、シンポジウムそのままの企画、枠組みの著作権を学会の所有とすることについて提案があった。

今後同様の依頼のあることを踏まえて、学会の知的財産を守るための検討委員会を設立してはどうかとの意見もあったが、内容が法律的な部分とも関係する為、理事長の小委員会とする方が妥当であるという結論に達した。長期的には法学関係者、専門家に相談したうえで、他学会の事例も参考にしながら進めていくこととなった。

11. その他(会員原簿の提供に関する申し合わせ。会員名簿の作成など)について

ある研究会より、本会会員原簿提供の依頼のあったことが報告され、外部への提供は原則禁止とすることが確認された。

また、前回作成時より、長く紙媒体の名簿を作っていないことから、作成することについて審議されたが、外部へ漏れてしまう危険もあることから、保留とすることが確認された。

2) 各委員会報告

< JBMM 編集委員会 >

日時: 2006年11月24日(金) 14:20 ~ 15:00

場所: 千里朝日阪急ビル5号室

五郎大編集秘書より資料に基づき説明があり、以下の事項を承認した。

I. 報告事項

1. 発行準備状況

24(6)を11月に予定どおり発行した。25(1)は9月に発行し、25(2)まで発行する準備ができています。

2006年は11月17日までに135編の投稿で、昨年よりやや減少気味である。年末までの投稿数は150編くらいの見込みである。なお、11月に入り、7編の投稿があった。

2006年11月17日現在、投稿数 135編 昨年比 98.5% (うち62編 reject, 45.9%)

2005年 151編 (うち69編 reject, 50.3%)

25(2)(2007年3月発行予定)は、すでに10編の論文が採択され、シュプリンガーへ発送済である。現在は42編が審査中である。

過去3年の分野別推移は、基礎が全体の35%、外科が23%、内科が42%という割合で、概ね投稿されていたが、最近では内科の投稿が増加してきている。

2004年 149編 国内 74編(49.6%) 海外 75編
(基礎 55:36.9%、外科 34:22.8%、内科 59:39.5%、内科/基礎 1)

2005年 151編 国内 58編(38.1%) 海外 93編
(基礎 52:34.4%、外科 35:23.1%、内科 63:41.7%、疫学 1)

2006年11月 135編 国内 54編(40%) 海外 81編
(基礎 41:30.3%、外科 24:17.7%、内科 69:51.1%、外科/内科 1)

地域、国別の内訳: 日本 54編、アジア 22編、EU 28編、北米 10編、中近東 15編、ブラジル 2編、南アフリカ 1編、オセアニア 32編

アジア: 中国 12編、香港 2編、韓国 4編、タイ 2編、マレーシア 1編、インド 1編

EU: ギリシア 5編、ポーランド、スペイン 4編、フランス 3編、スイス、イタリア、デンマーク、ドイツ 2編、エストニア、スロベニア、セルビア、ノルウェー 1編

2. Review の掲載状況

資料にある Report のとおり、Dr. 八木 満 (慶応義塾大学、奨励賞) を Vol.24, No. 5 に掲載し、Dr. 深川雅史 (神戸大学、学術賞)、Dr. 中瀬尚長 (大阪医療センター、奨励賞) を No. 6 に、Dr. 平田一成 (長崎大学、奨励賞)、Jian-min Liu (新潟大学、投稿レビュー) は Vol.25, No.1 掲載する予定である。

各賞受賞者の原稿到着が遅れがちであり、2006年受賞者へメールにて11月に再確認した。なお、細井孝之先生(2002年学術賞受賞者)から投稿を11月24日に受け付けた。

学術賞、奨励賞の受賞者には「**レビュー執筆が義務付けられていること**」を喚起する手紙を受賞式前に送付することを徹底してほしい旨、および学術大会時、海外より招聘する研究者も、学会時に抄録を受け取られるように大会長へ確認することを編集委員長より強く示唆された。

3. 2006年度発表予定の impact factor は Supplement 論文数分の母数が増えるため、一時的に低下する見込みである(2005年度 JBMM の impact factor 値が 1.464)。

4. 日本学術振興会研究成果公開促進費申請を学会事務局から11月に行うため、資料を作成し、申請ページは昨年どおりとした。また、10月24日に日本学術振興会の検査を受けた。主に2006年度実績報告書を確認されたので、学会事務局が対応した。なお、鈴木前委員長、編集事務局が陪席し、席上、ジャーナルの質を上げるには、多くの投稿論文が必要であり、その論文審査をするための費用を科研費請求のためのコストに算入できるようにしていただきたいと要望した。

5. 表紙デザイン変更

2007年1号より前回の編集委員会で決めたデザインのとおり、表紙を改訂する予定となっている。

II. 協議事項

1. 電子査読システム導入について

電子査読システム導入の際、各担当が作業する時間の目安について、確認した。これにもとづいて、期日前または期日が過ぎた時に reminder を送ることとする。

システム導入前にレフェリーを登録することにしており、associate editor から登録申請があった者、editorial board メンバー等、現在登録を予定している154名の一覧を配布し、追加メンバーがあれば、12月6日までに連絡するよう編集事務局から associate editors へ依頼があった。また、導入後にレフェリー

を登録する場合は Associate editor 各自で入力することになる。なお、評議員もレフェリーとして登録することを確認した。レフェリーを選択する際、JBMM Editorial board member であることを判別できるようにしてほしいと要望があり、シュプリングージャパンの担当者へ対応を依頼することにした。

12月8日まで associate editor 各自でデモを行ない、不具合があれば編集事務局へ連絡することとする。2007年1月以降郵送による投稿は、web 投稿をしてもらうように著者へメールで連絡することとし、デフォルトの手紙を作成しておくこととする。なお、Web 投稿は1月5日からオープンする予定である。

2. Associate editor メンバーについて

基礎分野の associate editor が不足気味であることから、1名増員することとした。加藤茂明先生を満場一致で推薦した。

3. その他

編集事務局は12月18日より移転する予定であり、学会事務局(10月移転)、編集事務局の移転先を JBMM Announcement として1月号に合同で掲載する予定である。

< 骨粗鬆症患者 QOL 評価検討委員会 >

日時: 2006年7月7日(金) 7:30~9:00

場所: TFT ホール 9階 会議室 9C

(〒135-0063 東京都江東区有明3-1)

議事: 骨粗鬆症患者 QOL(JOQOL)2000 年度版 信頼性・妥当性経過報告

1. データについて

熊本先生より、再テスト信頼性検証用(1ヶ月において再テストを実施した症例)として83例、妥当性検証用(JOQOL + SF-36 + BMD + X・P)として200例の収集データのうち、193例が解析に用いられたことが報告された。

2. JOQOL2000 年度版の信頼性の検討

1) 再テスト信頼性

尺度得点について(Pearson の積率相関係数にて検討)

JOQOL 合計評価点、および各ドメインの評価点について、テストと再テストの得点間の相関係数は、 $r = 0.85 \sim 0.97$ であり、高い信頼性が認められる、との報告がなされた。

各項目の再テストの信頼性

今後、下位尺度(ドメインの構成)を変更する場合に備え、設問1問ごとの再テスト信頼性について、Kendall のタウ、および

カッパ係数によって検討した。その結果、Kendall のタウにおいては、 $0.60 \sim 0.95$ という容認可能な値を示し、各項目においても信頼性があると認めてよいと考えられる、との報告がなされた。

2) 尺度内の内的整合性

尺度内の設問同士の整合性について、Cronbach の係数にて検討したところ、JOQOL の合計評価点については、内的整合性が十分に高く、一つの尺度として成立しているとなし、良いことが確認された。一方、各ドメインの評価点においては、ドメインによってばらつきがあり、.ADL の係数の値が0.3と著しく低く、. 娯楽・社会、. 転倒・心理においては0.6点台であった。ドメイン得点の使用について、どのような形で示していくか、この値を許容し公開していくか、といった問題が提起された。

3) 各ドメイン評価点と合計評価点との関連

各ドメイン評価点と合計評価点との間の相関係数は、 $r = 0.6 \sim 0.8$ と適当な値であり、問題のないことが確認された。

3. JOQOL2000 年度版の妥当性の検証

脊椎の圧迫骨折数と有意な相関が認められ、骨密度とは有意な相関が認められず、1999 年度版と同様の結果が得られた。また、SF-36 の各領域と、有意な相関が認められた。以上から、JOQOL の最低限の妥当性は、確認された。

なお、各ドメインの妥当性については、当初の計画通り、今回は検討していない。参考資料として、各ドメインの因子的妥当性について、確証的因子分析の結果が紹介されたが、内的整合性の結果と同様に、.ADL については、望ましい結果とはなっていない。

以上の報告をまとめた結果、以下の内容が確認された。

JOQOL2000 年度版の信頼性について

JOQOL2000 年度版の合計評価点について、その信頼性は、極めて良好である。

各ドメインの評価点については、再テスト信頼性(再現性)は極めて良好であるが、内的整合性が低いドメインがある。

JOQOL2000 年度版の妥当性について

JOQOL2000 年度版の合計評価点については、事前に想定された1999年度版と同様の関係性が示され、必要最小限の妥当性は確認された。

JOQOL2000 年度版のドメイン得点の使用について

当初より、ドメインについての検討は、今回の計画には含まれて

いなかった。予備的な検討では、内的整合性が低く、因子的妥当性が不十分なドメインがあるため、現状で、ドメイン得点の使用を推奨することは難しい。

結論として、JOQOL2000 年度版の合計評価点については、1999 年度版の代替となりうる事が、確認された。

今後の方向性として、JOQOL2000 年度版を Publication すること、および short version を作成する事の2点について、遠藤理事より提案があった。

2000 年度版と、1999 年度版のどちらを推奨するのがよいかという問題について、2000 年度版は 1999 年度版と並行して使用されるものではなく、学会の正式な評価は 2000 年度版であることが確認された。

中村委員長より、2000 年度版と、他の QOL 評価表との共通点と相違点を明らかにすること、および short version への要望が強く、早期に作成すること、という提案があった。

審議の結果、2000 年度版は、尺度として必要最小限の信頼性と妥当性が確認されたことから、2000 年度版について publication に向けた準備をすること、2000 年度版を基にした short version を作成すること、が確認された。具体的には、SF36 との共通点と相違点を明らかにするための解析、ならびに short version 作成の方法や、どこまで設問を少なくできるかについて検討するため、議論の前提となる解析を進めていくこととなった。

< 骨密度基準値設定委員会 >

2006 年度第 1 回委員会

日 時：平成 18 年 4 月 2 日(日)13:00 ~ 15:00

場 所：八重洲倶楽部(東京都)

議 題

1) 本委員会の設定の経緯と目的

- ・原発性骨粗鬆症の診断基準の作成時(1994 ~ 1995 年)に用いた BMD 基準値の見直し
- ・骨粗鬆症の治療開始基準の作成に必要な日本人の BMD 基準値(特に YAM)の設定

2) データ収集について

- ・対象: 住民、ドック・健診受診者、hospital control
- ・性: 女性、男性の双方
- ・年齢: 18 ~ 80 歳代

- ・測定部位: 腰椎、大腿骨(頸部、トータル)、橈骨
- ・主たる施設: 川崎医大、成人病診療研究所、東京女子医大、東京都老人医療センター、鳥取大、日本女子大、放射線影響研究所(予定)
- ・協力: 長野県健康づくり財団、女子栄養大(予定)、東洋メディックなど
- ・期間: 2004 ~ 2006 年の横断調査
- ・DXA 装置: QDR、DPX(腰椎、大腿骨)、DCS(橈骨)
- ・骨折の判定: 主治医の判定に委ねる。X 線写真は収集しない。
- ・IRB 委員会の承認: 各施設の規程による。
- ・調査および記載項目: 施設名、ID、性別、年齢、閉経後年数、BMD 値、測定部位、機種名、スキャン・モード、骨折の有無と骨折部位

3) 今後の検討項目

- ・対象例の選択方法
- ・欧米での YAM の決め方
- ・YAM、T-スコアの定義
- ・T スコアと Z スコアとの関係
- ・同一装置メーカーの異なる機種の BMD 値の取り扱い(例えば QDR4500 vs 2000 etc)
- ・同一装置メーカー、同一機種の異なるスキャン・モードの BMD 値の取り扱い

2006 年度第 2 回委員会

日 時：平成 18 年 5 月 19 日(日)13:00 ~ 15:00

場 所：パブリックヘルスリサーチセンター(東京都)

議 題

1) 前回第 1 回委員会議事録の確認

前回 4 月 2 日に行われた委員会の議事録が確認され、承認された。

塚原委員より、新潟医療福祉大学医療技術学部にてデータ収集について協力可能である旨、申し出があった。

太田委員より BMC 基準値も集めるのはどうかとの提案があり、審議された。WHO の診断基準では、BMD と BMC の両方が必要になっているが、10 年前の原発性骨粗鬆症診断基準の作成時のデータと比較するには、BMD のみでよいことと、解析作業の負担を減らすため、BMD 基準値のみで進めることとなった。塚原委員より、「骨折の判定」において、主治医の判定のほか、自己申告かそうでないかの質問項目を分けて作る旨、提案があり、承認された。

2) 検討項目について

・対象例の選択方法

正規分布に基づいて行うことが確認された。

・YAM 値の決め方について

欧米では特に定義はなく、20 歳～45、46 歳までは、無い場合が多いことが確認された。

・IRB 委員会の承認について

メーカーよりデータを収集する際に、小医院からもデータが集まるので、倫理委員会を通す必要があり、財団法人パブリックヘルスリサーチセンター(以下財団と省略)の倫理委員会を通すことにて承認された。

・データ収集について

委員の施設からのデータはデータベースの形になっているが、他施設や、メーカーからの収集の場合は、別途入力の必要もあることから、学会より予算の拠出を依頼することが確認された。

データ収集時には、フォーマットを電子データで揃えることとし、除外基準や重複例など予め決めておくことが確認された。

データ解析については、藤原委員の施設にて行うこととなった。

今後のスケジュールとしては、以下の予定にて行うこととなった。

1) 7 月

第 24 回骨代謝学会時に、企業へデータ収集依頼、および収集方の詳細について企業と協議する。

研究計画書を作成の後、財団へ提出、倫理委員会の承認を得る。(財団より 1 つ IRB を通していれば、地域ごとの施設で承認は必要ない。)

2) 8 月

データ収集開始

3) 10 月

データ取りまとめ。解析開始。

4) 2007 年 3 月

解析終了。

関連学会の大会開催予定

第 27 回日本骨形態計測学会

学会テーマ:

「骨形態から骨質へ - マクロからミクロ, ナノへの挑戦 - 」

会長: 伊東 昌子

(長崎大学医学部・歯学部附属病院放射線部 助教授)

会 期: 2007 年 (平成 19 年) 5 月 31 日 (木) ~ 6 月 2 日 (土)

会 場: ハウステンボス (長崎県佐世保市)
ユトレヒトプラザ、ユトレヒト会議室、ホテルヨーロッパ
レンブラントホール

大会 URL: <http://www.braineye.co.jp/congre/jsbm/>

第 2 回国際骨免疫学会議

2nd International Conference on Osteoimmunology:
Interactions of the Immune and Skeletal Systems

会 期: 2008 年 6 月 8 日 (金) ~ 13 日 (水)

会 場: ギリシャ・ロードス島

大会 URL:

<http://www.aegeanconferences.org./2ndOsteoimmunology/index.asp>

学会ホームページ URL 変更のお知らせ

2006 年 10 月より、学会ホームページ URL が下記へ移動しました。

<http://jsbmr.umin.jp>

事務局移転のお知らせ

学会事務局ならびに編集事務局が変更しましたので、今後ご連絡は下記宛てお願いいたします

学会事務局 (2006 年 10 月より)

〒612-8082 京都市伏見区両替町 2-348-302

アカデミック・スクエア内

TEL: 075-468-8772 FAX: 075-468-8773

ホームページ URL: <http://jsbmr.umin.jp>

JBMM 編集事務局 (2006 年 12 月より)

〒541-0043

大阪市中央区高麗橋 4 丁目 3-7

アプラスステーション (株) 内

TEL: 06-6205-6005 FAX: 06-6228-5811

E-mail: jbmm@apoplus.co.jp

電子査読業務開始のご案内 / メールアドレス登録のお願い

2007年1月5日より、Journal of Bone and Mineral Metabolism (JBMM) への新規投稿は、Editorial Manager を利用する電子査読業務を開始しました。

今後は、紙原稿ではなく、web (<http://www.editorialmanager.com/jbmm/>) にアクセスして、投稿下さいますようお願いいたします。

会員皆様の研究成果を発表する場として、JBMM へますますご投稿いただくことをお待ちしております。

電子査読を開始するに伴い、メールアドレスが未登録の会員は学会事務局へメールアドレスを下記の要項にて、FAX またはメールにて連絡するようお願いいたします。

なお、ご登録いただいた方へは、ニュースレターや、その他国際骨代謝学会の情報など、メールにていち早くご提供させていただきます。ご協力のほど、何卒よろしくお願いいたします。

メールアドレスご登録 FAX 送信先： 075 - 468 - 8773

ご芳名：

ご登録メールアドレス：

表紙デザイン変更のご案内

Vol.25, No.1 より表紙のデザインを 1995 年以来 12 年ぶりに一新しました。



IBMS への入会のご案内

The International Bone and Mineral Society (IBMS)は世界 64 カ国に会員約 2,500 名を有する世界最大規模の骨代謝分野の国際学会です。IBMS は日本骨代謝学会、European Calcified Tissue Society (ECTS) および The American Society for Bone and Mineral Research (ASBMR)と 2 年に 1 度 Joint Meeting を開催し、各地域における研究の発展に尽力しています。

2003 年 6 月には日本骨代謝学会との初めての Joint Meeting が大阪で開催されました。今後もより一層 IBMS との関係をより深めつつ、相互の会員の利益になるため会員の皆様には、ぜひ IBMS へ入会くださいますよう、ご案内申し上げます。



詳しい情報ならびにお申込につきましては、

IBMS ホームページ

<http://www.ibmsonline.org/> membership のページより、
ご覧ください。